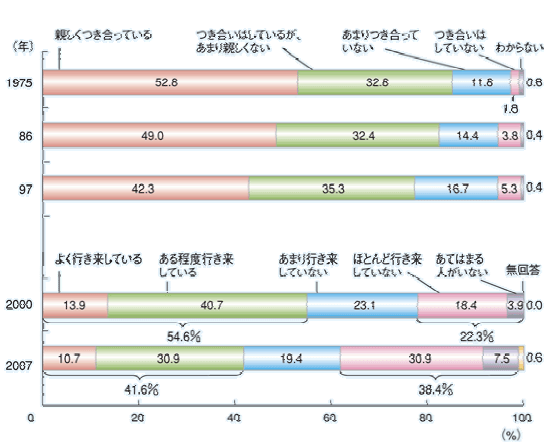


(2) 従来型の地域コミュニティの希薄化と新たな担い手の萌芽

- ・ 地域コミュニティの希薄化が進展してきている。
- ・ 地域コミュニティを構成する基礎単位となる家族も、核家族化が進展している。
- ・ 安全安心なまちづくりを進める上での担い手として、町内会・自治会などの既存の地域コミュニティに加え、NPOなどの新しい主体の活動が期待される。

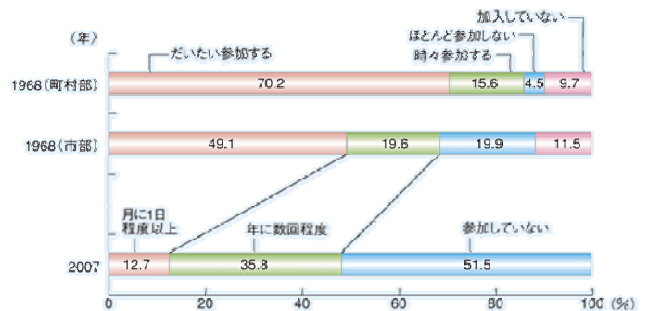
① 地域コミュニティの希薄化の進展

内閣府の社会意識に関する調査（1975年、1986年、1997年）および国民生活選好度調査（2000年、2007年）の結果から、地域・隣近所との付き合いは、経年的に希薄化している傾向が見られる。また、町内会・自治会への参加の程度も、減少する傾向がみられ、地域コミュニティの希薄化が進展している状況が見られる。



(備考) 1. 内閣府「社会意識に関する世論調査」(1975、86、97年)により作成および「国民生活選好度調査」(2000、2007年)により特別集計。
 2. 1975、86、97年は「あなたは、地域での付き合いをどの程度していらっしゃいますか。この中でどれでしょうか。」という問いに対し、回答した人の割合。
 2000、2007年は「あなたは現在、次にあげる人たち(「隣近所の人」とどのくらい行き来していますか。(〇はそれぞれ1つずつ)という問いに対し、回答した人の割合。
 3. 回答者は、1975、86、97年は全国の20歳以上の者。2000年は、全国の20歳以上70歳未満の男女。2007年は、全国の20歳以上80歳未満の男女。

図 近所づきあいの程度の推移
(平成19年 国民生活白書より)



(備考) 1. 内閣府「住民自治組織に関する世論調査」(1968年)、「国民生活選好度調査」(2007年)により作成。
 2. 1968年は、「お宅は町内会・部落会等に入っていますか。」という問いに対して回答した人数を母数として、「入っていない」以外の回答をした人を「加入していない」とした。
 また、同質問に対し、「入っている」と回答した人のうちの「お宅では、町内会・部落会等のしていることに、だいたい参加していますか、それとも時々参加する程度ですか。」という問いに対し、「だいたい参加する」、「時々参加する」、「ほとんど参加しない」と回答した人の人数を先の問の回答者数を母数として、それぞれの割合を算出した。
 3. 2007年は、「あなたは現在、『町内会・自治会』のような活動に参加していますか。参加の頻度についてお答え下さい。」という問いに対し、回答した人の割合。ただし、「ほぼ毎日」、「週に2〜3日程度」、「週に1日程度」、「月に1日程度以上」と含算して表示している。
 4. 回答者は、1968年は全国の都市のうち昭和40年国勢調査時の人口集中地区人口が3万人以上の都市でその人口集中地区に居住する世帯主500人と主婦500人および全国の町村部に居住する世帯主500人と主婦500人(わからないを除く)。2007年は全国の16歳以上80歳未満の男女3,346人(無回答を除く)。

図 町内会・自治会への参加頻度
(平成19年 国民生活白書より)

② 核家族化の進展

2005年に我が国は人口減少社会に突入しているが、一方で、世帯数は年々増加傾向を示しており、その結果、1世帯あたり人員は継続的な減少を続けている。

地域社会を構成する基礎単位である家族について、核家族化が進展してきている。

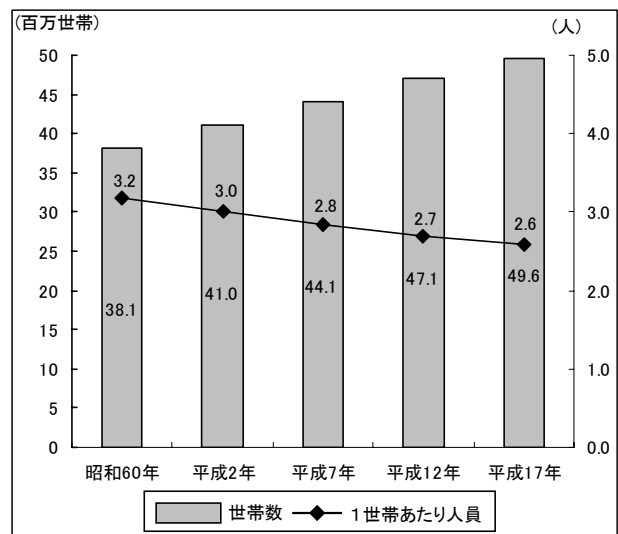


図 核家族化の状況 (国勢調査結果より)